

SJクイズ

[問題編]

Q1

平成30年中の自転車が第1当事者または第2当事者[※]となった交通事故（自転車関連事故）を事故類型別に見た場合、最も多い事故類型は次のうちどれでしょう？

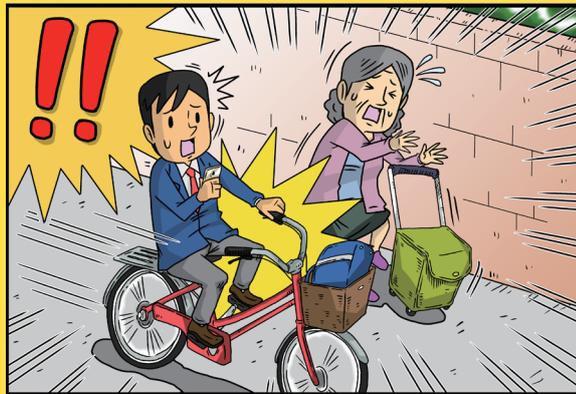
- ① 出会い頭衝突 ② 左折時衝突 ③ 転倒（単独）

※第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は、被害が最も軽い者。第2当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は、被害がより大きい方の当事者。

Q2

自転車対歩行者の交通事故（平成26～30年）のうち、歩行者の死亡・重傷事故における自転車運転者（第1・第2当事者）の年齢層で最も多いのは次のうちどれでしょう？

- ① 10～19歳 ② 20～29歳 ③ 40～64歳



Q3

小学生・中学生・高校生の自転車関連死亡・重傷事故（平成26～30年）における自転車運転者（第1・第2当事者）の法令違反で最も多い違反は次のうちどれでしょう？

- ① 信号無視 ② 一時不停止 ③ 安全不確認

【使用上の注意】

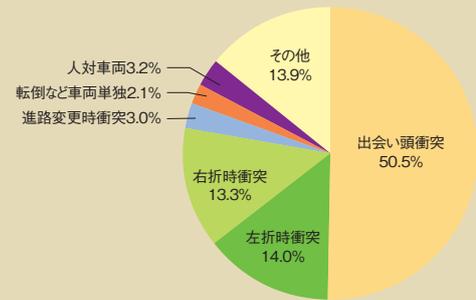
●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03(5412)1736

Q1 解答 ① 出会い頭衝突

<解説>

平成30年中の自転車（第1・第2当事者）の交通事故8万5641件を事故類型別にみると、「出会い頭衝突」が50.5%と最も多く、左折時衝突14.0%、右折時衝突13.3%と続いている。出会い頭事故を防ぐため、自転車利用者は一時停止標識のある交差点や見通しの悪い交差点を通行する際、必ず止まって左右の安全を確認してほしい。

●自転車（第1・第2当事者）の事故類型別・交通事故件数（平成30年・構成率）



Q2 解答 ① 10～19歳

<解説>

自転車対歩行者の交通事故（平成26～30年）のうち、歩行者の死亡・重傷事故における自転車運転者（第1・第2当事者）の年齢層で最も多いのは10～19歳で36.3%を占めている。また、自転車対歩行者の事故を衝突地点別にみると歩道が最も多いことから、特に若年層に対しては、歩道では歩行者が優先であることを伝える必要がある。

Q3 解答 ③ 安全不確認

<解説>

小学生・中学生・高校生の自転車関連死亡・重傷事故（平成26～30年）における自転車運転者（第1・第2当事者）の法令違反で最も多いのは、安全不確認である。安全不確認の割合は学齢が下がるほど、高くなっている。止まって周囲をよく観るという安全確認の重要性を、小学生段階から繰り返し指導していくことが重要だといえる。

●児童・生徒の自転車関連死亡・重傷事故における自転車運転者（第1・第2当事者）の法令違反件数（平成26年～平成30年合計）



※文中のデータ、グラフの出典は警察庁資料

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03 (5412) 1736

